

## プレスリリース（ご案内）

# 「かわさきケアデザインコンソーシアム」 キックオフシンポジウム ～未来のケアを共創する～

報道関係者 各位

平素は大変お世話になっております。

文部科学省/JST による「共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）」川崎拠点（プロジェクト CHANGE、プロジェクトリーダー：一木隆範/ナノ医療イノベーションセンター研究統括/東京大学大学院工学系研究科教授）は、「かわさきケアデザインコンソーシアム」キックオフシンポジウム～未来のケアを共創する～を 11/6（水曜）午後 3 時より、後述の要領にて実施致します。

プロジェクト CHANGE も採択から 2 年が経ち、組織の基盤も大分固まりました。それに伴い、看護ケアの現場からは、高齢化に伴う患者増と少子化によるケア従事者不足といったアンバランスにより多忙や重複課題が常態化し、医療ミスや若手人材の早期離職が起きやすい状態となりつつあります。これは、一般病棟のみならず、急性期患者の増加で使用頻度が高まっている手術室や救命救急室のバックヤードで勤務する方々へも過度な負担としてのしかかってくる。看護業務への負荷は、医療事故の発生リスクを高めるともされ、現状の改善は喫緊の課題として捉えられています。方や、ビジネス的側面においても看護ケアに関連する市場は 2050 年に現在の約 3 倍となる 77 兆円まで膨らむという経済産業省の試算もあり、ヘルスケア市場への新規参入に興味を示す企業は 7 割に及ぶとの調査結果（独自調査）もあります。しかしながら、ヘルスケア産業は「規制産業」との先入観からか「市場ニーズが見えにくい」といった声が多く、また、試作品の実証研究を行うための場を構築するノウハウが足りずに同市場への参入を躊躇する企業は 6 割超に達するとの結果が同調査より得られています。このような現状を打開し、新規参入へのハードルを下げるべく「かわさきケアデザインコンソーシアム」を川崎市に設立する運びとなりました。全国唯一の市単位での看護協会を持ち、介護福祉機器の支援を目的とした独自の認定制度（KIS: かわさき基準）を持つ川崎市ならではの「医工看共創の場」をつくり、ケア現場のニーズと企業のシーズをマッチングさせることで、いち早くケア現場が必要とする製品を届ける仕組みを構築します。

特別講演として、前・テルモ株式会社会長の三村孝仁（たかよし）氏を招き、医療機器メーカーでの豊富な経験に基づいた製品化・産業化の課題と本コンソーシアムへの期待についてお話し頂ける予定です。

## 記

- 日時： 2024年11月6日（水）15時～17時15分  
場所： 川崎市産業振興会館ホール（JR川崎駅から徒歩7分）  
<https://kawasaki-sanshinkaikan.jp/access.html>  
Zoomによるオンラインでも視聴できます。
- 参加費： 無料  
事前登録： 10月30日までに以下のサイトからご登録をお願いします。  
<https://iconm.kawasaki-net.ne.jp/form/consortium2024/>
- 主催： 公益財団法人川崎市産業振興財団  
後援： 文部科学省、日本科学技術振興機構、川崎市看護協会、川崎市

未来のケアを共創する

かわさきケアデザインコンソーシアムキックオフシンポジウム  
KAWASAKI CARE-DESIGN-CONSORTIUM  
KICK OFF SYMPOSIUM 2024

2024  
11.6 Wed.  
15:00 - 17:15 (情報交換会17:30～)

川崎市産業振興会館1階ホール  
JR川崎駅 北口から徒歩7分  
(オンライン同時配信あり)

参加申込：  
10月30日まで(要事前申込み)

主催：(公財)川崎市産業振興財団プロジェクトCHANGE事務局  
後援：文部科学省、科学技術振興機構、川崎市、川崎市看護協会

KIP CHANGE COE NEXT



ヘルスケア市場への  
参入に意欲



市場ニーズが  
わからず  
新規参入に慎重



ケア現場

X

企業

X

社会（川崎市）

課題へのソリューションを提供し、ケアイノベーションを継続的に生み出すためのエンジン

2024

コンソーシアム設立

企業誘致・産業化  
スタートアップ創出

- ・ケア現場の労働環境改善
- ・医療事故の抑止
- ・地域包括ケアの推進

CHANGE  
Center of Healthy longevity And Nursing Innovation with Global Ecosystem

ケアイノベーションの社会実装

## Program

15:00 開会

15:05 来賓挨拶

- 平野 博紀氏** 文部科学省 科学技術・学術政策局 産業連携・地域振興課 拠点形成・地域振興室 室長
- 出戸 浩朗氏** 経済産業省 商務・サービスグループ 医療・福祉機器産業室 室長補佐
- 澤谷 由里子氏** 共創の場形成支援プログラム 共創分野・地域共創分野 第2領域 副プログラムオフィサー
- 玉井 一彦氏** 川崎市臨海部国際戦略本部 本部長

15:25 CHANGEプロジェクト紹介

- 一木 隆範** プロジェクトリーダー / iCONM研究統括 / 東京大学 教授

15:35 コンソーシアム設立概要の紹介

- 白崎 功** プロジェクトCHANGE シニアコーディネーター

16:00 川崎市看護協会がコンソーシアムにかける期待

- 堀田 彰恵氏** 公益社団法人川崎市看護協会 会長

16:10 休憩

16:20 特別講演 『医療機器産業の課題とコンソシアムを成功させるために』

- 座長 **一木 隆範** プロジェクトリーダー
- 講演 **三村 孝仁氏** プロジェクトCHANGE アドバイザー / テルモ株式会社 前代表取締役会長



17:15 閉会挨拶

- 鈴木 毅** 公益財団法人川崎市産業振興財団 理事長

### 共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）について

大学等が中心となって 未来のあるべき社会像（拠点ビジョン）を策定し、その実現に向けた研究開発を推進するとともに、プロジェクト終了後も、持続的に成果を創出する自立した産学官共

創拠点の形成を目指す産学連携プログラム。JST の既存の拠点形成型プログラムの1つである、センター・オブ・イノベーション (COI) プログラムがコンセプトとして掲げる「ビジョン主導・バックキャスト型研究開発」を基軸とした制度設計を行ったことから、本プログラムの愛称を「COI-NEXT」ともいいます。知と人材の集積拠点である大学等のイノベーション創造への役割が増している中、これまでの改革により、大学等のガバナンスとイノベーション創出力の強化が図られてきました。今後、「ウィズ/ポストコロナ」の社会像を世界中が模索する中、我が国が、現在そして将来直面する課題を解決し、世界に伍して競争を行うためには、将来の不確実性や知識集約型社会に対応したイノベーション・エコシステムを「組織」対「組織」の産学官の共創（産学官共創）により構築することが必要となります。

<https://www.jst.go.jp/pf/platform/outline.html>

### プロジェクト CHANGE について

文部科学省/JST による「令和4年度共創の場形成支援プログラム COI-NEXT」（共創分野・本格型）に川崎市産業振興財団（理事長：三浦 淳、所在地：川崎市幸区、略称：KIIP）が代表機関となり申請し、2022年10月25日に採択が決まったCOI-NEXT川崎拠点のことをプロジェクトCHANGEと呼びます。「医工看共創が先導するレジリエント健康長寿社会」をビジョンに掲げ、少子高齢社会にあって負担が増える医療職種の中でも、これまで工学がほとんど介入してこなかった看護領域に特に着目して看護業務の負担軽減を工学の力で行うとともに、老化に抗う身体を造る術について研究開発を行い社会実装します。さらには、市民のケアコンピテンシー（ケアする力）を高め、誰もが簡便に扱えるケア製品やシステムを開発します。

<https://change.kawasaki-net.ne.jp/>

### 公益財団法人川崎市産業振興財団について

川崎市の100%出捐により昭和63年に設立され、川崎市内及び周辺地域の産業経済の発展に寄与すること、また、先端的な医療分野、薬学分野等における研究開発の推進等により医療・福祉の向上などを目的としています。行政や関係機関、各拠点と連携し、川崎市産業振興会館を市内中小企業・ベンチャーの支援拠点として位置づけ、経営支援強化をはじめ、新産業・新技術の創出支援など、産業振興に関わる諸事業に積極的に取り組むと同時に、中小企業・ベンチャー等の抱える課題の解決に向けて、「総合的な支援サービスの提供」に注力しています。

<https://www.kawasaki-net.ne.jp/>

### ナノ医療イノベーションセンターについて

ナノ医療イノベーションセンター (iCONM) は、キングスカイフロントにおけるライフサイエンス分野の拠点形成の核となる先導的な施設として、川崎市の依頼により、公益財団法人川崎市産業振興財団が、事業者兼提案者として国の施策を活用し、平成27年4月より運営を開始しました。有機合成・微細加工から前臨床試験までの研究開発を一気通貫で行うことが可能な最先端の設備と実験機器を備え、産学官・医工連携によるオープンイノベーションを推進することを目的に設計された、世界でも類を見ない非常にユニークな研究施設です。

<https://iconm.kawasaki-net.ne.jp/>

2024年10月21日